



男を夜の
オカズに
する男たち
男に夜の
オカズに
される男たち

男を夜のオカズにする男たち

同級生が齧ったきゅうりを

大学の食堂でのこと。

斜め向かいに座る同級生が齧ったきゅうりを袋に放ってぼやいた。

「いくら、節約のためでもなあ」

袋の中にはきゅうりだらけ。

つい齧られたきゅうりを凝視していたら「なあ」と声をかけられて。慌てるも、目のまえに突きだされた袋。

「俺、飽きたし、もらってくれね？」

受けとると「農家の実家から産地直送だから旨いよ」と笑いかけ去っていったもので。

さて帰宅して例の袋を冷蔵庫にいれつつ、齧られたのだけ手に持つ。ベッドに座り、「シャツをめぐりあげ、胸の突起に齧られた跡の凸凹を当てて揺すり「ん、はあ・・・」と熱い吐息を。

思いだすのは、彼がきゆうりを口に含むすがた。

「食べ方変えれば味も変わるんじゃない？」と舐めたり吸ったりしやぶったり。

マヨネーズをつけて、べろりと舐めあげるなんて、もう。

ズボンがきつくなつたから下着ごとずらして、濡れた一物にきゅうりを擦りつける。

彼の舌が、彼の息子が、ときゅうりを通して想像し「はあ、や、すごお、きもち・・・！」とお漏らししまくり。

白い液体にまみれたきゅうりを齧るのを思いおこしたなら、たまらず「ひいああん！」と射精。

息を切らしつつ、足を開き尻の奥に齧ったほうをねじこむ。帰るまで、さんざん自慰をしたから太きゅうりにむしゃぶりつくように。

丸丸埋めこんだなら、きゅうりを引いて突っこんでの繰り返し。棘が擦れるのに「はああう！」とヨがり、ドリルのようにかき回して

やまず。

「ああ、さすがあ、農家の、息子の、おちんちん！いぼいぼがあ、おう、おお、おふうう！どしよ、きもちい、きもちよしゆぎい！」

想像だけでいくより、ずっと刺激が強く、自慰で潮吹きする始末。

事後はさすがに、きゅうりを捨てたとはいえ、翌日、彼に「昨日のお礼」とバナナを。

「やった！俺、好きなんだ！」と早速食べるのを、記憶にとどめながらも「もう想像だけじゃ足りないかも」と腰を疼かせた。

男に夜のオカズにされる男たち

目隠しをしたネクタイが

卒業式を終え、大学の友人らと俺の家で酒を飲んで大騒ぎ。酔っぱらったのりで目隠し鬼なんかして。

将生がじゃんけんにかけて目隠しを。

といて、酔いが回ってまともに動けずふらふら。

俺らは笑いを堪え、体を指でつついたり手でくすぐったり。

「くう!」「うあ!」といちいち大袈裟に反応し、ついたには尻餅をついて降参。

目隠ししたまま頬を染めて呼吸を乱すのに大笑いする友人らに紛れ、俺はひそかに息を飲んだもので。

翌朝、友人らを送りだしてから片づけ。

目隠し鬼で使ったネクタイを手にとり、なんとなく自分の目元に巻きつける。

「お前、敏感なの？それとも目隠しで興奮している？」

仰向けに倒れるスーツ姿の将生。

唇を噛んで震えるのを眺めながら、背広のボタンを外し、メシヤツに手を滑らせなでなで。

だんだん息があがってきて、うすい布を乳首が押し上げて浮き彫りに。

その回りに指を滑らせ、真ん中は触らず。

「ん、くう、んん、んあ・・・」ともしどかしそうに体をくねらせ、ズボンをもっこり染みをじわじわ。

ぐるぐる回していた指で乳首を弾いたら「ひいううん！」と情けない声を漏らし射精。

「乳首だけで」とせせら笑い、屈辱に顔を歪める将生を眺めつつズボンと下着を脱がせる。

太ももを持ちあげ、股間に顔を埋めて尻の奥に舌を。

今まで以上に、感度ばつぐんで俺の頭にあんあん精液を降らす。

「やあ、舌あ、すごお、生生し・・・！あ、あ、んあ、そんな、舐め

ちやあ、だめええ！」

「だめ」とは口だけで、太ももで俺の頭を挟み揺らして強請っているよう。

お望み通り起きあがって、息子を剥きだしにし唾液まみれの体中に突入。

「ひやあん！や、やらあ、お前の、おちんち、形があ、見えるよお！
すつご、やらし、おちんち、おふう、おおう！」

注ぎこめば「ああ、生温かああ！」と恍惚とした表情で潮吹きを。

なんて自慰するのに使った道具を翌々日「忘れてったぞ」と返還。

「こんど二人きりのとき目隠ししてくれよ」といえば「なんで？」聞

いたものを、ほほ笑むだけで応じなかった。